

【砺波税務署長賞】

「税金の使われ方」

富山県立南砺福野高等学校一年 原田 侑衣子

私が住む富山県にはライトレールが走っている。富山市に行った際にはよく利用してさまざまなデザインや街中を走る姿には毎回驚かされる。全国でも珍しいライトレールは鉄道好きの間でも知られた屈指の電車スポットだ。だから県外からも多くの人を呼び寄せる。富山県にライトレールが走っているのはコンパクトな都市を目指して作られたからだ。

このライトレールには多くの税金が使われている。例えば安全に走行するための道の整備やライトレールの管理等さまざまだ。しかし、これに不満をもつ人もいるだろう。富山県は車を多く所有する県で有名だ。それは車があれば非常に住みやすく渋滞も少ないという利点があるからだ。一方で高校生や高齢者等の車を使えない世代、また二酸化炭素排出等の問題がある。そのような時にライトレールはとても便利で環境に適している乗り物である。これがなくなると交通手段がなくなり富山県の中心部に人が集まらなくなる。加えて富山県は高齢者が多い県でもある。そうすると年の若い世代が急激に減ってしまい、都市の過疎化が進んでしまう。そして活力を押し下げてしまう。また経済的にも伸び悩むだろう。税金は私たちの生活を豊かにしてくれる鍵となる。自分とは直接関係がないと思っても助けられていることもあるということを知っておくべきだ。このことから税金がないと経済が不安定になることも分かった。税金は交通だけに使われているのではない。病院等の医療費や学校等の教育費等の身近にたくさんの税金を使っている。税金を使っている以上無関心ではなく関心と責任を持つことが大切だと思う。税金を無駄に使わないためにも選挙に参加し議員を選ぶべきだ。自分に使われていないと感じても、他の誰かの役に必ずなっている。

富山のライトレールも街中を走ることで街が賑わい笑顔が増える。ライトレールを使って都市に来る人も増える。税金はたくさんの良いことにつながっているのだ。税金は賛否両論があるが日本や富山県の税のおかげで作られ支えられている明るい生活、街、そして未来に感謝すべきだと私は思う。